

# 下野市立国分寺小学校



## 1 学校課題

学び合い、高め合う児童の育成（第2年次）  
～各教科の特質を生かし、対話的な学びの  
実現に向けた授業の創造～

## 2 研究計画

### (1) 主題設定の理由

本校では、昨年度から研究主題を「学び合い、高め合う児童の育成」と設定し、児童が主体的・対話的に活動する授業づくりを通して、研究に取り組んできた。その中で、教師のファシリテートによって、子ども達の活動がより豊かになることを確認し、授業力の向上へとつなげてきた。本年度は、対話的な学びを実現させた姿をより具体的に示しながら授業検討を行い、タブレット導入に伴う ICT 機器の効果的な活用の仕方を考えることで、研究主題に迫っていく。

### (2) 基礎研究

- ①新教育課程のねらいや授業改善の確認
- ②対話的な学びに関する先行研究の分析や共通理解
- ③ICT 機器を有効的に活用した授業の検討や共通理解
- ④本校の昨年度までの研究実践の成果の整理・活用

### (3) 授業研究

- ①教科グループでの授業研究
- ②宇都宮大学共同教育学部附属小学校の教諭、市教育委員会指導主事に指導・助言を受けながらの研修（S&U コラボ事業、校内研修会）

### (4) 関連研究

- ①小中一貫教育

## 3 研究内容

### (1) 各教科における見方・考え方を意識した授業の実践

教科ごとに3～5名の少人数による教科グループを編成し、授業研究を行った。指導案検討は、各教科の見方・考え方について深く考えることができる場となった。また、少人数のグループ編成により、一人一人が多くの意見を出し合うことができるため、活発に意見交換をすることができた。

### (2) 対話的な学びを実現させる授業の工夫

授業形態を工夫することが難しい現状の中、子ども達の意見をつなげたり、広げたりしていただけるような教師のファシリテート力が引き続き重要になると考えた。そこで、教師のファシリテーターとしての役割について意識したり、ICT 機器の活用法を提案したりしながら、校内研究授業を行った。

### (3) 教師の指導力を向上させる教師の学び合い

S&U コラボ事業、校内研修会では講師の先生を招聘し、実際に授業を行っていただいた。子どもとのやり取りの様子を見せていただいたり、より専門的なお話を伺ったりすることができ、授業についてより具体的に考える良い機会となった。

#### (4) 授業研究の足跡

月日 (曜日)	種別	学年	単元名	課題追究のための手立て
9/22 (水)	学校課題 (S&U) 附属小湯澤 先生による 授業	3年	外国語 「相手の好きな季節を 当てよう」	課題意識をもたせる工夫と動画 の活用。
10/5 (火)	学校課題 (グループ)	6年	家庭科 「クリーン大作戦」	意見交流の方法や場の工夫。
10/6 (水)	学校課題 (グループ)	2年	算数 「長方形と正方形」	ワークシートを用いた発表の場 の設定。
10/6 (水)	学校課題 (グループ)	5年	理科 「水よう液の性質」	ICT 機器を活用しながらの観察の 場の工夫。
10/6 (水)	学校課題 (S&U)	6年	外国語 「What country do you want to visit?」	録画を用いた振り返りや全体共 有の工夫。
10/12 (火)	学校課題 (グループ)	3年	音楽 「せんりつをつくろう」	例示の工夫と音楽を視覚的にも 共有する工夫。
10/18 (月)	学校課題 (グループ)	4年	道徳 「山びこ村の二人」	人物の関係の視覚化と、自分の考 えを書く時間の確保。
10/20 (水)	学校課題 (グループ)	1年	国語 「おはなしをたのしも う『やくそく』」	ワークシートの工夫と感想カー ドの使用。
11/25 (木)	学校課題 (グループ)	特支 4年	算数 「時こくと時間」	視覚的に捉えやすくするための 教材の工夫。

## 4 本年度の成果と課題

### (1) 成果

- ① 対話的な学びの実現に向けた手立てとして、教師によるファシリテートの手段の一つとして、ICT 機器、特にタブレット端末を活用することが有効であることを実感できた。
- ② 授業の観点を指導案に位置付けることで、授業の構成の段階や研究協議の際に、より子どもの姿を具体的に捉え、要点を絞った検討を行うことができた。

### (2) 課題

- ① ICT 機器の必要性、重要性を理解しているものの、まだ実践例が少なく、取組について校内でも差がある。いつ、何を、どのように活用すると、どんな成果があるのかについて継続して取り組んで行く必要がある。
- ② 各教科グループの研究内容の共有について、資料をデータ上で共有できるようにしたもの、まだ十分な共有には至っていない。職員全体で共有し、授業で活用できる校内のシステムを再検討していきたい。

